

第3回 九頭竜川自然再生計画検討会

議事骨子

日時：平成19年11月14日(水) 14:00～16:30

場所：福井県国際交流会館 3階 特別会議室

1. 議事

事務局より、水際環境保全・再生(九頭竜川下流域)、砂礫河原再生(九頭竜川中流域)、支川・水路連続性再生(九頭竜川、日野川)について、それぞれの目標設定と保全・再生箇所に関する説明がありました。

また、九頭竜川の各再生事業における現状分析及び保全・再生箇所設定について、各構成員から以下のような意見がありました。

水際環境保全・再生

- ・オオヒシクイの調査結果について、調査内容の詳細を教えてください。また、水辺の国勢調査等の調査内容や調査結果も教えてください。
次回検討会にて詳細についてご説明させていただく。
- ・オオヒシクイはマコモだけでなく、ヒシの実を食べるので、ヒシの調査も行ってはどうか。
- ・ヒシはため池や水田等に生育するため、水の流れがある河川においてヒシの群落が形成されるのかどうかは疑問である。
- ・オオヒシクイに関して、今後、調査頻度を高くし、きめ細かな調査を行う必要があるのではないか。オオヒシクイについては、引き続き情報収集整理を行う必要がある。
- ・水際、浅場については、多種多様な生物が利用しており、代表的な種を対象に考えることも大事だが、様々な生物種を考慮して総合的な視点で検討することが大事ではないか。
- ・浅場を造成することと同時に、淀川で実施されているように水制等を用いてワンドを創出してはどうか。
- ・浅場の造成は一番大事なことであり、基本的な考え方としてはよいと考えられる。
- ・下流部において再生箇所を考える際に、治水上の制約となるような河川改修の予定はあるのか。

長期計画である河川整備基本方針においては下流部の改修メニューが設定してあるが、河川整備計画においては改修の予定はない。

砂礫河原再生

- ・平成 5 年にコアジサシの確認数が多いのは、天池公園の造成中に一時的に増加したためである。
- ・樹木伐採や砂州切り下げ等で砂礫河原を復元することにより鳥類が九頭竜川に戻ってくると期待できる。
- ・ここ 10 年程度で代表的な生物種が減少している理由としては、植生の遷移と砂礫河原の減少が影響していると考えられる。
- ・鳥類が減った理由の一つとして、小魚が減ったということも考えられる。
- ・砂礫河原だった箇所が、4～5 年後には植生が繁茂しおり驚いた記憶がある。
- ・砂利採取がなくなったところから砂礫河原が減少したように感じる。
- ・砂礫河原の砂礫が量的に変化しているか、粒径が以前に比べて変化しているのか。
平均河床高についての大きな変化は見られない。ただ、深掘れしているような箇所はある。粒径については大きく変化していないと理解している。
- ・様々な生物種のために、河床にあらゆるサイズの礫が必要であると考えられるが、可能かどうかは別にして、上流に存在する礫を下流へ運搬して投入するような事も考えてはどうか。
- ・砂礫河原の再生困難箇所とある箇所も将来的には再生箇所となるようにしてはどうか。
現在は試験的に再生箇所を設定している段階であり、今後のモニタリング等において必要ならば再生箇所を再検討することも考えられる。

支川・水路連続性再生

- ・本検討会にて樋門自体の改築等も考えてあるのか。
基準に合っていないと考えられる樋門等については、河川整備計画において改築が考慮されている。
- ・本支川間で魚類移動の連続性を確保することは重要である。しかし、流入河川に遡上できる環境を整えても、遡上した魚類が水田等にあがることができない状況や支川が三面張りになっている状況もある。
- ・支川・水路連続性再生効果については、調査データをもとに支川に遡上する魚種の数等に基づき評価してはどうか。

2. 事務連絡等

事務局より、今後の予定について、次回検討会を 2 月頃に予定しているというお知らせがありました。